

令和2年度 会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

評価： 適合(A)、懸念(C)、弱点(W)、欠陥(D)

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 R1	前年度自己点検及び改善すべき事項 R1	①評価概要 R1	評価 R1	②改善事項 R1	会議開催回数 R2	③今年度の活動内容 R2	④自己点検及び改善すべき事項 R2	評価者	⑤評価概要 R2	⑥評価 R2	⑦改善事項 R2
1	主管会議	校長	総務・企画係	定例会議14回、臨時会議を12回、持ち帰り会議を1回開催し、適切に審議され実施できた。	会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態のため、紙の削減ができ経費の節約が図れ、業務の経減につながった。また、全教職員に会議資料を共有することができ、共通理解を得ることができた。また、口頭説明は簡略化するなどで、進行の効率化を図っている。	活動状況は良好である。	特になし		41	定例会議13回、臨時会議を27回、持ち帰り会議を1回開催し、適切に審議され実施できた。	定例会議については、会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態のため、紙の削減ができ経費の節約が図れ、業務の経減につながった。	上原教授	良好である。	A	なし。
2	運営会議	校長	総務・企画係	定例会議14回、臨時会議を4回開催し、適切に協議され実施できた。	会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態のため、紙の削減ができ経費の節約が図れ、業務の経減につながった。また、全教職員に会議資料を共有することができ、共通理解を得ることができた。また、口頭説明は簡略化するなどで、進行の効率化を図っている。	活動状況は良好である。	A	第12回運営会議(合格判定)：2/20水曜日のように定例の水曜日以外の会議については、構成メンバーが授業で出席できないことも多いので、会議内容を権力予定の合格判定に絞るべきである(緊急を要する議題がある場合は除く)。	32	定例会議13回、臨時会議を19回開催し、適切に協議され実施できた。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、teamsでのオンライン開催を行い、感染拡大の抑制と同時に業務が効率化した。会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態のため、紙の削減ができ経費の節約が図れ、業務の経減につながった。また、全教職員に会議資料を共有することができ、共通理解を得ることができた。	上原教授	良好である。	A	なし。
3	スパイラルアップ会議	校長	総務・企画係	適切に審議され実施できた。	特になし	活動は良好である。	A		1	適切に審議され実施できた。	特になし	麻草准教授	良好である。	A	
4	教務会議	教務主事	教務係	定例の教務会議を28回実施し、メール会議を含めると40回以上実施した。新入生(前期)に併い、Webシラバスの運用やMOCCI対応したカリキュラムの検討、旧カリから新カリへの変更、Office365を活用した授業時間割の作成、オープンキャンパスや中学校訪問、入試説明会など入学志願者の確保に向けた広報活動等を数多く行った。昨年度に比べて、退学者は半数以下にまで減少し、受検倍率は、平均2.10となった。	仮進級学生の単位取得状況を担任にも提供し、情報の共有を図るとともに、該当学生に対する指導や追認試験に関する申し合せに当たって実施した。仮進級者については、前期までの完了を基本とした。また、現行の成績処理システムCampus Assiatのシステム更新及び学生情報統合システムKOREDAの本格運用に向けて、教職員の負担軽減を図りながら対応する必要がある。	活動は良好である。	A		46	定例の教務会議を46回実施し、メール会議を含めると60回以上実施した。COVID-19対応のため、前期は完全オンライン授業、9月から段階的開講を取り入れて、ハイブリッド(2教室分散)・実験・実習(クラス全員)などの授業方法を試行したため、10回以上の個別授業時間割を作成した。また、中間試験等が実施できなかったため、学生に通知の上で、Webシラバスの成績評価方法を修正するなどの必要性が生じた。また、高専は学年制を基本としているものの、本年度のオンライン授業等により教員と学生のコンタクトタイムが不足した。このため十分な補習、継続的な指導等ができなかったことを鑑み、以下の仮進級制度の大幅な見直し(校長決定)を実施した。 1)仮進級科目の未修得科目：3月末まで継続的に指導し、修得できなかった場合には、翌年度6月末までに修得すること(仮進級科目を免除して、不良品12以下) 2)仮進級の条件(不良品12以下)：3月の成績μ切後、追試験等(未提出課題レポート等を含む)を実施して継続的に指導し、成績向上が認められれば年度内に追加進級判定を実施した(対象者：31名→追加認定者：12名)。この結果、原級留置者は計30名(H31:46、H30:48、H29:57)となった。 一方、オープンキャンパスや中学校訪問、入試説明会など入学志願者の確保に向けた広報活動等も、対面方式や来校者制限により大幅に減少した。昨年度に比べて、志願者数は304(117減)、志願倍率は1.52(昨年度2.11)と大幅に落ち込み結果となった。	吉村教授	①今年度は、COVID-19対応のためにやむを得ない面もあるが、本来、教務会議は審議事項を教務委員を通じて各学科の意見を集約した上で方針を定め、主管会議で審議、運営会議で協議の上、教員会議で報告すべてであったが、教育に係る重要な事項が完全トップダウン(リスク管理室会議)となっており、本校の教育の根幹を揺るがす懸念がある。 ②COVID-19禍の特異な場面でも、常に本校での方針決定のきまり(主管会議・審議、運営会議・協議、教員会議・報告)を遵守すべきであり、リモートでの臨時会議も可能である。	C		
4	-1 FD活動推進会議	教務主事	教務係	授業参観週間(前後期に1週間)の設置、FD講演会2回を実施し、本年度は教育実習生を対象とした。授業参観は、前期及び後期ともに外部からの参加を受け入れて成果を公開した。後期FD講演会では、明石高専の学年統制・学科構造的なチームの活動授業(Co+work事業)の実践を外部講師から報告され、チームの質の向上に気づくFD活動となった。	授業参観やFD講演会に対する教員参加率は増加していない。授業参観前に教育APで実施された学生アンケート結果を配布、周知するなど、活動の可視化やスパイラルアップへの流れはできつつある。今後は、学生からの反応をMoodle/Office365を用いて収集して授業改善に繋げる実践例を取り上げる必要がある。	活動は良好である。	A		2	今年度は、4月から完全オンライン授業が必須となったため、LMSおよびOffice365のTeamsが導入された。各種活動がTeamsにより参加可能であるため、スパイラルアップへの流れはできつつある。今後は、学生からの反応をLMS、Office365を用いて収集して、授業改善に繋げる実践例を取り上げる必要がある。次年度に期待したい。	吉村教授	良好である。	A	特になし	
5	専攻科会議	専攻科長	教務係	定期的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、特例適用の変更届への対応、および特別研究1の英語発表等を実施した。また、継続課題であったJABEEプログラムについては、本年度をもって終了することを決定した。豊橋技術科学大学との「先端融合テクノロジー連携教育プログラム」については、具体的に教育課程を検討し、令和2年度以降入学生を対象とした連携教育プログラム教育課程を定めた。	活動状況は良好である。次年度は、これまでの活動を継続するとともに、「先端融合テクノロジー連携教育プログラム」を実施した観点から見直し、課題となる事項があれば適宜検討し修正を図る。	活動状況は良好である。	A	特になし。	12	定期的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、特例適用の変更届への対応、および特別研究1の英語発表等をオンラインで実施した。また、継続課題であったJABEEプログラムについては、1年間の実施状況を検証し、教育課程表が妥当であることを確認した。	山本学生主事	良好である。	A	特になし。	
6	学生会議	学生主事	学生係	予定通り学生会行事の実施や、各種学生表彰を実施。学生の微塵に関する事業について審議のうえ対応した。懲戒件数は28年度7件、30年度は4件(5人)と減少傾向であったが、R1年度は14件(27人)と大幅に増加した。自動車交通事故は28年度35件、29年度20件、30年度も20件であったが、R1年度は16件と大きく減少させることができた。紛失盗難が29年度16件、30年度は8件、R1年度は10件であり殆どが減少であった。防犯や盗難への抑止となるよう、防犯カメラの設置を、伊吹出入口、第1体育館出入口、6号館女子トイレ付近に加え、R1年度は伊吹2Fにもカメラの設置をした。	会議は全て良好に実施できた。R1年度は懲戒指導者が増えたことが気になった。内容としては、自動車免許に関する書類の未提出者に厳しく指導を行なった。7名を懲戒指導した。また、傘の無断借用をした学生5名についても厳しく指導したことが挙げられる。次年度は自動車免許取得や通学に関する指導を早い段階で実施したい。交通事故関係では例年より大幅に減少することができた。引き続き交通安全活動を実施していく。課外活動や各種コンテストで活躍する学生達に対しては、その支援の仕方についても継続して検討していく。また、それに伴う教員の業務負担についても引き続き対策を考えていく。	活動状況は良好である。	A	特になし。	28	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響があり、1年にわたり遠隔授業や分散登校が続いた。そのような中、今年度は臨時会議が1件も必要ない年となり、28年度定例会議は全て良好に実施できた。しかしながら、全ての学生会行事の企画を計画したものの、多くの学生会行事が中止となった。R2年度学生会の活動については、学生会役員による交通安全運動・風紀局によるクラス感染症対策用品の点検・感染症予防の校内放送・報道局による献血活動・MSJリーダーズによるボランティア清掃活動(校外・校中)などを実施した。この他、学生会役員紹介・新人生へに向けたクラブ紹介・学生会役員選挙に関わり活動全てをLMS・Teamsを活用して実施した。また、各種表彰については、体育大会関係以外の学生表彰を全て実施した。令和2年度の懲戒件数は3件だけであり、学生主事専攻注意1件、学級担任指導2件と過去最少となった。自動車交通事故は2件の軽微な事故が4件であった。紛失盗難については、4件の紛失盗難があったが、うち1件は発見されている。全体的にみて、遠隔授業や分散登校であったため交通事故や盗難紛失などが過去最少ない年となった。	麻草准教授	令和元年度は特に自動車免許取得に関する書類提出不備により、懲戒指導者が増えたことが問題となった。この点を改善するために、令和2年度は学級担任にも協力を依頼し、提出書類の状況を学生会委員とダブルチェックすることによって指導した。交通安全教育に際しては、新型コロナウイルス感染症を考慮し、体育館等の広い会場で分散して実施した。令和3年度についても、免許取得試験を4月以降(血液検査・MSJ)リーダーズによるボランティア清掃活動(校外・校中)などを実施した。この他、学生会役員紹介・新人生へに向けたクラブ紹介・学生会役員選挙に関わり活動全てをLMS・Teamsを活用して実施した。また、各種表彰については、体育大会関係以外の学生表彰を全て実施した。令和2年度の懲戒件数は3件だけであり、学生主事専攻注意1件、学級担任指導2件と過去最少となった。自動車交通事故は2件の軽微な事故が4件であった。紛失盗難については、4件の紛失盗難があったが、うち1件は発見されている。全体的にみて、遠隔授業や分散登校であったため交通事故や盗難紛失などが過去最少ない年となった。	良好である。	A	各種学生会活動の活性化に向けた指導が期待される。
7	寮務会議	寮務主事	寮務係	寮務会議、寮生行事は予定通り行われた。退寮指導を4名、停寮指導を10名に対して行った。女子寮の指導内容の見直し(談話室の使用制限、点呼や掃除のやり直し期間)を進めた。後期にB寮の改修工事が始まった。男子寮棟の学生・人員配置を見直した。O室への3号機搬入。また、有線であったA寮側の無線LAN機器を無料化する等、寮生の生活環境の改善を図った。さらに、来年度の第1女子寮改修が決定し、それに伴う大幅な定員超過が予想されるため、改修後のB寮を女子寮化するともに、退寮対象者への説得と情報提供に努めた。また、教員の宿直負担軽減のため、新たに1名(合計2名)の男子寮担当を担任できる負担軽減員を採用した。	寮務会議委員の業務負担軽減のため、総会や行事等の実施時間の変更や短縮をいっそう進める必要がある。	寮務の活動は良好である	A	特になし	23	新型コロナウイルス感染症流行のため、寮生行事の殆どが予定通りに実施できなかった。会議開催については、例年より回数はやや少ないものの、オンラインなども活用し、不備や滞りなく実施できた。感染症対策として、①分散開講、②全寮室の消毒、③点呼方法の見直し、④食事・入浴時間と方法の見直し、⑤集団による談話室利用の禁止、⑥オンラインでの総会や選挙の実施、⑦アルバイト禁止など、種々の管理態勢見直しを行った。特に、上記③や⑤への対応のため、また寮生の寮棟内での学習環境の改善を図るため、食堂を含めた全寮棟にWi-Fiのアクセスポイントを設置した。	山本学生主事	良好である。	A	寮行事や寮生活については、学生の満足度も考慮しながら検討して見直しにいたるよう期待する。	
8	将来計画委員会	教務主事	総務・企画係	計画通り開催され、今年度は教員評価の大幅な見直しを行うWGを立ち上げた。従来の教育面、管理運営面、研究面の評価軸から、教育・運営面、研究面に大別して、細かな指標を大きく見直し(ほぼ同じになるように、講師、准教授、教授の昇進のポイントを設定した。さらに、専門基礎(応用物理、応用数学)グループの積極的な解消など、案件を検討し、次年度に継続して改善することとした。また、教員の業務経減、勤務形態等についての検討が行われた。	第1期中期目標・中期目標終了時の教員特定員削減の中で、限られた人的資源を活用しつつ、ICT機器を活用した業務の効率化などが急務となっている。	活動状況は良好である。	A	特になし。	5(臨時を含む)	昨年度に引き続き、教員評価の大幅な見直しに加えて、機関別認証評価対応などを実施した。教員評価については、教育・運営面、研究面(大別)→一般科と専門学科の合計(教育・運営面+研究面)が同じになるように、講師、准教授、教授の昇進のポイントを設定した。また、認証評価対応については、三つの教育方針(OP、CP、AP)を改定し、カリキュラムマップ及びカリキュラムツールを新教育課程用(H29年度入学者)に修正した。	中島寮務主事	活動状況は良好である。	A		
9	財務・施設委員会	校長	財務係・施設係	財務・施設委員会の主な活動内容(開催回数4回) ●第1回①平成30年度決算について②平成30年度校長裁量経費の決算について③令和元年度予算配分(案)について④令和2年度概算要求事業(施設整備関係)について⑤令和元年度実施事業(施設整備費補助金事業・営繕事業)について⑥寮・図書館改修工事期間中の移転先について⑦その他(高専教育充実設備費について、国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画(個別計画)2018、教員室等の使用申請について、連携教育プログラム実施のための施設整備) ●第2回①令和元年度校長裁量経費について②令和2年度予算編成方針(案)等について③令和元年度施設整備費補助金事業・営繕事業進捗状況について④令和2年度施設整備概算要求について⑤生活関連施設改善要望(男女共同参画推進室より)について⑥その他(令和元年度補正予算にかかる採択事業の内示について) ●第3回①令和2年度予算配分審査(要求ヒアリング)②令和元年度施設整備費補助金(補正予算)事業について③1号館西、女子寮改修工事期間中の移転先について④その他(女性教員比率向上のためのポジティブアクションについて) ●第4回①令和2年度予算配分について②令和2年度 教員室等の継続使用(不動産使用許可)及び冷暖房機器の継続使用について③報告事項(令和3年度施設整備費概算要求事業について)	適切に審議され、各事業が実施された。	施設整備等の予算が充たされ、それに伴う活動は良好である。	A	特になし	5	財務・施設委員会の主な活動内容(開催回数5回) ●第1回①令和2年度設備整備マスタープランの策定について②第2回①令和元年度決算について②令和元年度校長裁量経費の決算について③令和2年度予算配分(案)について④令和2年度施設整備費補助金事業 工事概要について⑤その他 ●第3回①令和2年度校長裁量経費 公募分の審査について②令和2年度施設整備費補助金事業の進捗状況について③令和3年度施設整備費補助金概算要求について④その他 ●第4回①令和元年度予算編成方針(案)について②令和2年度施設整備費補助金(補正予算)事業について③その他 ●第5回①令和3年度予算配分審査(要求ヒアリング)②総合教養棟等改修工事期間中の移転先について	適切に審議され、各事業が実施された。	活動状況は良好である。	A		
10	入試運営委員会	教務主事	教務係	臨時の会議(1回)を含めて、合計7回の会議を実施した。本科1年次入学者選抜(推薦および学力)については、大きな変更はない。備前女子特別選抜については、インターネットによる面接方式を継続したが、台高からの備前女子は、本校にて受験した。編入学生については、学業成績が合否判定指標に反映されないことなどから、面接の評価に組み込み、配点について見直した。専攻科入試については、大きな変更はなく実施された。なお、JABEE適用は2019年度で終了である。	適切に審議され、各事業が実施された。また、編入学生の募集の基本的な考え方として、法定定員(40名)を下回った場合に募集することとし、年度当初には、募集の有無が定員枠の観点からは自動的に決まることになる。なお、転科については、同様の考え方から、法定定員を満たしている場合は、転科を認めないこととする。	活動状況は良好である。	A	特になし。	7	臨時を含めて、合計7回の会議を実施した。本科1年次入学者選抜(推薦および学力)については、今年度はCOVID-19対応として本試験と追試験が設けられ、東海北陸地区高専と予備問題を共有するなどを設けたが、追試験は実施しなかった。また、備前女子特別選抜については、インターネットによる面接方式を継続し、7名(web)4名、対面)が受験した。編入学生については、法定定員(40名)の欠員が無い場合は募集しないこととした。また、転科についても同様の考え方から、法定定員を満たしていない場合は、転科を認めることができた(今年度、1名3年時で転科・電子制御工学科→環境都市工学科)。なお、専攻科入試については、大きな変更はなく実施された。	中島寮務主事	今年度受審した機関別認証評価では、本科および専攻科ともに、アドミッションポリシー(API)に沿った検証結果に基づき改善の取組が十分とはいえないとの指摘があった。推薦選抜の面接では、アドミッションポリシーを評価項目に入学生については、学力選抜では、調査書のチェック欄のみの自己申告である。入学後のAPIに沿った人材を確保しているかの評価方法(特に低学年の授業科目)を設定する必要がある。また、それらが、DPに基づいたCPとの関連性も重要であり、これらの三つの教育方針(OP、CP、AP)からの点検が今後の課題である。	A		

令和2年度 会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

評価： 適合(A)、懸念(C)、弱点(W)、欠陥(D)

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 R1	前年度自己点検及び改善すべき事項 R1	①評価概要 R1	評価 R1	②改善事項 R1	会議開催回数 R2	③今年度の活動内容 R2	④自己点検及び改善すべき事項 R2	評価者	⑤評価概要 R2	⑥評価 R2	⑦改善事項 R2
11	広報委員会	研究主事	総務・企画係	R1年度は、前期6月、後期12月、年間計2回の会議を実施した。また、ホームページの更新に向け、ミニワーキンググループを2回開催した。R1年度は外部の報道機関への広報活動強化を図った。H30年度は年間21件であったが、今年度は年間で93件の外部報道機関への広報活動を実施した。また、中部経済新聞に岐阜高専教員9名による研究シーズを9回にわたり連載し、企業関係者や関係機関へ広く対し掲載を依頼した。HPの更新については、R2年度に向けホームページの一部をリニューアルする方向で検討し作業を進めた。また、ホームページの更新が今後も容易にできるように、HP担当委員と業者との間で確認もなされた。	年間2回高専だよりを発行しているが、R1年度は前期発行予定の高専だよりが計画より2週間程度遅れてしまった。これは、前期期間中に教職員の業務が非常に多忙で多岐に渡るため、原稿依頼の遅れや原稿提出の遅れが原因として挙げられる。前期の広報委員会会議を、これまでの通例時期より早めに開催することが改善策として考えられる。ホームページのリニューアルについては、掲載されている写真の変更やバナーの配置などの変更を行っている。今後は広報活動の内容が更に多岐に渡って重要となるため、広報委員長を学生主事より研究主事に交代してR2年度より業務にあたることに決定した。	HPの更新以外は改善が進んでいる。広報委員長を交際することにより、この改善が進むことが望ましい。	C	高専だよりのリンクなど、より事務職員による学内での直接処理が望まれる。例としてはAPのホームページの作成や教育後援会のホームページの更新は全て所が日々実施している。	2	ホームページ更新の手引きを改訂し、新規の「新型コロナウイルス関連情報」を含む更新方法・更新担当者の周知を行った。広報活動については、モリド成卓と連携したアウトリーチ活動を計画した。コロナ禍の影響で中断している。なお、コロナ禍で多くの行事が中止となる中、外部報道機関への報道は41件あった。	高専だよりについては、令和2年3月発行予定版が卒業式中止に伴い発行延期となったが、令和3年3月に行われたオンライン卒業式の写真と校長辞書を追加して発行する予定である。	「高専だより」の3月号は卒業生にとって記録としての価値のある号である。1年間の延期、さらには9月号の発行も行われておらず、例えば、新任の紹介や担任挨拶など発行時期を逃すことで、広報としての出版物としての価値が失われる懸念がある。	吉村教授	C	「高専だより」は、令和2年3月発行予定版、9月未発行予定版、令和3年3月版の合併号として、早急に発行すべきである。また、昨年度の改善事項「高専だよりのリンクなど、より事務職員による学内での直接処理が望まれる」はどのような取り組みがされたのか不明であり、少なくとも年度には方針を決めるべきである。
12	人事委員会	校長	総務・企画係	採用・昇任等の審議を実施した。	適切に審議され、実施した。	良好である。	A		17	採用・昇任等の審議を実施した。	適切に審議され、実施した。	中島事務主事	活動状況は良好である。	A	
13	安全衛生委員会	校長	総務・企画係 契約係 施設係	毎月の衛生に関する事項と、9月に防災に関する次の事項を審議した。 ・職場の安全衛生と作業環境の確保(職場の安全・衛生監視等) ・健康管理(熱中症の予防講習会、熱中症予防についての注意喚起) ・健康増進の実施・安全衛生教育の実施(救急法講習会等) ・防災備品の充実 ・ストレスチェックの実施(外部委託)	適切に審議され、実施した。	良好である。	A		12	毎月の衛生に関する事項と、防災に関する事項を審議した。新型コロナウイルスの感染拡大予防のための事項も審議した。その他主な審議事項は以下のとおり ・職場の安全衛生と作業環境の確保(職場の安全・衛生監視等) ・健康管理(熱中症の予防講習会、熱中症予防についての注意喚起) ・ストレスチェックの実施(外部委託) ・健康増進の実施・安全衛生教育の実施(救急法講習会等) ・防災備品の充実 ・ストレスチェックの実施(外部委託)	適切に審議され、実施した。	上原教授	良好である。	A	なし。
14	点検評価・フォローアップ委員会	委員長	総務・企画係	①R01年度年度計画の達成状況を点検評価(中期計画WG) ②R01年度学習評価フォローアップ点検の基本方針を策定(学習評価フォローアップWG) ③R01年度授業アンケート結果の分析(学習評価フォローアップWG) ④R01年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度を調査(学習評価フォローアップWG) ⑤岐阜高専の規程に基づく自己点検・評価を実施した(自己点検・評価実施WG) ⑥令和2年度受審予定の機関別認証評価の準備をした(自己点検・評価実施WG) ⑦5月の参与会に臨んで、H29とH30年度についての外部評価を実施、とりまとめ点検した(自己点検・評価実施WG)	活動は良好である。	活動状況は良好である。	A	特になし	9	【全体】 ① 機関別認証評価について、自己評価書の取組みの運営管理、訪問調査資料取りまとめ、及び、訪問調査実施計画の立案等を行った。 【中期計画関係】 ① 令和元年度の年度計画達成状況(高専機構本部の書式)の点検を実施した。 【自己点検・評価実施関係】 ① 令和元年度に実施した岐阜高専の自己点検・評価規程に基づく自己点検・評価結果をWeb公開した。 ② 機関別認証評価の事前相談結果を受けて、岐阜高専独自の自己点検・評価に必要なデータ蓄積システムを構築した。 ③ 岐阜高専の自己点検・評価規程に基づいて、Formsを利用して進学先アンケートを実施した。 ④ Formsを利用して施設・設備とICT環境についての満足度調査を実施した。 ⑤ 自己点検評価検討委員会の依頼により、Formsを利用して卒業生アンケート(平成27年度卒業生・修了生)を実施した。 ⑥ 岐阜高専の自己点検・評価規程の一部改正を実施し、評価項目に卒業生アンケートを追加した。 ⑦ 例年、紙で実施している「卒業生・修了生の教育目標についてのアンケート」をFormsで実施し、結果を周知しWeb公開した。 ⑧ 外部評価としての参与会について令和3年度の実施計画を立案し、3/18開催の臨時運営会議で草案として報告した。 【学習評価フォローアップ関係】 ① 令和元年度のフォローアップ資料に基づいて各委員が実施した教員面談の結果を取りまとめ周知した。 ② コロナ禍対応に機関別認証評価対応のため「学習評価・フォローアップ点検実施要領」を適宜、更新し周知した。 ③ 令和3年度以降の実施に向けて、授業アンケートのIT化(Moodleによる実施)を策定し、教員説明用のパワーポイントも作成した。 ④ 令和2年度の授業アンケート結果をとりまとめ、フィードバック報告書等とともにフォローアップ資料として蓄積した。	なし。	北川教務主事	機関別認証評価対応を含め、活動は良好である。	A	特になし
14	-1 中期計画WG	委員長	総務・企画係	①親委員会の点検評価・フォローアップ委員会の実施事項の①にあるようにR01年度の中期計画の達成状況を点検評価した。	活動は良好である。	活動状況は良好である。	A	特になし	1	① 令和元年度の年度計画達成状況(高専機構本部の書式)の点検を実施した。	なし。	北川教務主事	活動は良好である。	A	特になし
14	-2 自己点検・評価実施WG	委員長	総務・企画係	①親委員会の点検評価・フォローアップ委員会の実施事項の⑤にあるように岐阜高専の規程に基づく自己点検・評価を実施した。 ②親委員会の点検評価・フォローアップ委員会の実施事項の⑥にあるように令和2年度受審予定の機関別認証評価の準備をした。 ③親委員会の点検評価・フォローアップ委員会の実施事項の⑦にあるように5月の参与会に臨んで、H29とH30年度についての外部評価を実施、とりまとめ点検した	活動は良好である。	活動状況は良好である。	A	特になし	7	① 令和元年度に実施した岐阜高専の自己点検・評価規程に基づく自己点検・評価結果をWeb公開した。 ② 機関別認証評価の事前相談結果を受けて、岐阜高専独自の自己点検・評価に必要なデータ蓄積システムを構築した。 ③ 岐阜高専の自己点検・評価規程に基づいて、Formsを利用して進学先アンケートを実施した。 ④ Formsを利用して施設・設備とICT環境についての満足度調査を実施した。 ⑤ 自己点検評価検討委員会の依頼により、Formsを利用して卒業生アンケート(平成27年度卒業生・修了生)を実施した。 ⑥ 岐阜高専の自己点検・評価規程の一部改正を実施し、評価項目に卒業生アンケートを追加した。 ⑦ 例年、紙で実施している「卒業生・修了生の教育目標についてのアンケート」をFormsで実施し、結果を周知しWeb公開した。 ⑧ 外部評価としての参与会について令和3年度の実施計画を立案し、3/18開催の臨時運営会議で草案として報告した。	① JABEEの受審を辞めたため、機関別認証評価以外の外部評価は参与会による点検評価のみになった。これに伴い外部評価としての参与会の位置付けがクロスアップされた状況にある。当初の参与会規程はこの趣旨で制定されていないため、早急に検討の上、改正されるのが望ましい。 ② コロナ禍のため参与会による令和元年度についての点検・評価がなされなかったため、令和3年度は令和元年度と2年度の評価を併せて実施するのが望ましい。とは言え、これまでの参与会の評価方法については機関別認証評価での評価は低いので、継続性については執着する必要はなく、令和元年度に対するアンケートをFormsで実施し、結果を周知しWeb公開した。 ③ 継続性よりも適切な外部評価としての参与会による点検・評価システムが構築されていることが肝要である。	北川教務主事	活動は良好である。	A	令和2年度機関別認証評価において、外部有識者による検証の結果を踏まえた自己点検・評価の実施が改善事項としてあげられたため、令和3年度に検討が必要である。
14	-3 学習評価フォローアップWG	委員長	総務・企画係	①親委員会である「点検評価・フォローアップ委員会」の②で策定した方針に準じてWGで具体的な作業を実施した。 ②R01年度の授業アンケートの取りまとめをWGで実施した。 ③親委員会である「点検評価・フォローアップ委員会」の④に示す「H30年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度調査」を実施した。	活動は良好である。	活動状況は良好である。	A	特になし	4	① 令和元年度のフォローアップ資料に基づいて各委員が実施した教員面談の結果を取りまとめ周知した。 ② コロナ禍対応に機関別認証評価対応のため「学習評価・フォローアップ点検実施要領」を適宜、更新し周知した。 ③ 令和3年度以降の実施に向けて、授業アンケートのIT化(Moodleによる実施)を策定し、教員説明用のパワーポイントも作成した。 ④ 令和2年度の授業アンケート結果をとりまとめ、フィードバック報告書等とともにフォローアップ資料として蓄積した。	① 令和3年度から実施予定のMoodleによる授業アンケートについて、令和2年度末は試行的なため、従来の紙タイプとの併用の予定であった。けれどもコロナ禍のため教員の諸業務負担が増大する懸念があり、Moodleによるアンケートの試行は取りやめた。令和3年度からのMoodleアンケートの円滑な実施に向けての計画を策定することが望ましい。	北川教務主事	活動は良好である。	A	当初の予定通り、令和3年度にMoodle等による授業アンケートの検討が必要である。
15	国際交流室会議	山本	教務係	■JASSO支援を基にした短期留学生(受入)を実施した。ハノーバ大学が3名、マレーシア工科大学から1名、バンドン工科大学から2名、トリノ工科大学から2名、ハイ建設大学から2名、トンプソン大学から2名の短期留学生を受け、研究室での実習を行った。 ■JASSO支援を基にした短期留学生(派遣)を実施した。アイワワ大学に2名、ハノーバ大学に2名、マレーシア工科大学に2名、トンプソン大学に2名、バンドン工科大学に2名、トリノ工科大学(タシメント校)に2名、TYK Limitedに2名を派遣し3週間の実習をさせた。資金援助は外部資金JASSOの他、教育後援会の国際交流基金、同窓会若しくは基金からの支援を受けた。 ■シリアル未処理系人材育成プログラムの企画・運営を行った。本プログラムには31名の学生が参加し、ボーイング、マイクロソフト、MG2などのシリアル現地の企業見学及び現地エンジニアとのワークショップを開いた。また、DigiParkやグラニット高校などの学校訪問も行い、現地の学生との交流も行った。 ■長期外国人留学生長期留学生を対象とした、学内(チューター 等の懇談会、校長との懇談会など)、学外(地域との交流会、現地見学旅行、ホームステイなどの各種イベント)を実施した。 ■専事に在籍する長期留学生を対象とした東海地区外国人留学生交流会(豊田高専主幹)として豊田市近郊の文化体験・工場見学を行い、3名の学生が参加した。 ■本校学生の希望者を対象としたトピタ留学ジャパン制度を利用した留学方法に関する講演会を実施した。 ■トピタ留学ジャパンへの応募を検討している学生に対し、応募申請のサポートを行ない、高校生コースに4名、大学コースに3名の応募があった。なお、高校生コース4名のうち3名が書類審査を通過した。 ■海外大学との長期学生受入として、電気工学科教員の研究室にシンガポール・ハプソックポリテクニクの学部生4名を5か月、IUTの学部生2名を3ヶ月にわたって受け入れ、研究指導を行った。 ■国際交流室規程を次年度に向けて見直し、事務担当を総務課、学生課の両課が担うこととした。これまで問題であった庶務手続き等の調整に時間を要していたが、情報の集約化、業務の効率化を図った。	■教職員の業務のバランス調整 国際交流室には専任教員が配置されていないことから、専任教員を置くなど他の業務とのバランス調整が必要であった。グローバルエンジニア育成プロジェクトによりR02年度は専任教員の雇用が計画されており、同教員を中心に据えた新たな国際交流活動の組織運営を構築して行く必要がある。 ■本校学生と短期留学生との交流 JASSO(日本学生支援機構)支援による短期留学生との交流は、研究室、学科、学生寮などで引き続き実施する。その他に「放課後トークカフェ」などの短期留学生との交流イベントを企画・運営してきたものの、イベント外での交流はあまり行われなかった。交流の深化は今後の課題にした。 ■海外インターンシップ、短期留学派遣 現在、海外インターンシップ、短期留学は、英国TYK Limited、バンドン工科大学(ITB)、マレーシア工科大学(IUTM)、トンプソン大学、ハノーバ大学、アイワワ大学、トリノ工科大学(タシメント校)に加え、ベトナムの種橋校、およびIUTを加えて募集をかけている。継続的な取組みとするためには同人数の双方交流が望まれる。そのためにJASSOなどの外部資金による派遣・受入の支援および本校の支援を継続させる必要がある。	活動は十分満たしている。今後は国際交流委員の負担が大きいと思われるため、教職員の業務バランスの調整に期待したい。	A		6	■エンバワメントプログラムを8月実施した。今回はコロナ禍の影響で全てのアクティビティをリモートで実施した。30名の学生が参加し、ファシリテーターの講義、英語でのコミュニケーション活動、グループディスカッション、英語でのプレゼンテーションを行った。アンケートより全ての学生が「非常に刺激を受けた」刺激を受けたとの回答を得ている。 ■シリアル未処理系人材育成プログラム(リモート)の企画・運営を3月にこなした。本プログラムには25名(途中1名辞退)の学生が参加し、ボーイングテストパイロットの前田氏、アマゾンエンジニアの鈴木氏のキャリアセッション、ファシリテーターによるグループディスカッション、自分の将来についての英語プレゼンテーションを行った。 ■放課後英会話レッスンを新規に立ち上げた。学生に好評でのべ171名の学生の参加があった。 ■第1学年、第2学年の学年集會にて越境体験のスミエと題した講演を行った。グローバル担当のアメリカ教員の越境体験や国際交流室が展開しているグローバル事業の紹介、トピタ留学ジャパンのアップデートを行った。 ■トピタ留学ジャパンへの応募を検討している学生に対し、応募申請のサポートを行った。大学コースに1名の応募があった。	今年度は短期・中期留学生受け入れが無かったため、室員の業務負担は大幅に軽減された。ただ、受け入れが再開した際の業務負担は以前として大きいと考えられる。全学的な受け入れ体制の構築(新たな立ち上がりによる国際寮の運用も含め)が必要と考えられる。	麻草准教授	良好である。	A	留学生受け入れのため、新設される国際寮の効果的な運用が期待される。
16	人権委員会	教務主事	総務・企画係	特に問題はあがっていない。	適切に審議され、実施した。	適切に実施されている。今後さらに教職員のハラスメント防止となるような調査や活動に期待したい。	A		2	ハラスメントに関する要望が1件あり、人権委員会委員と本人との面談を実施した。双方の文書から、論点に対して言いがかり遣っており、人権委員会としては、学外の第三者による論点整理と書面の確認が必要との結論に至った。	4月から主幹会議の体制が変わるため、改めて、学外の第三者の導入について検討する必要がある。	北川教務主事	活動は良好である。	A	会議構成員だけで判断できない案件については、学外の第三者の導入を検討する必要がある。
17	情報セキュリティ管理委員会	情報処理センター長	図書・情報係	主管会議、運営会議などを通じて、情報セキュリティ推進委員会の活動状況の把握および、情報セキュリティインシデントや情報セキュリティ監査への対応が適切に実施されていることを確認した。	適切に実施されている。	情報セキュリティの活動は良好である。	A	特になし	0	主管会議、運営会議などを通じて、情報セキュリティ推進委員会の活動状況の把握および、情報セキュリティインシデントへの対応が適切に実施されていることを確認した。	適切に実施されている。	亀山教授	良好である	A	

令和2年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等

評価 : 適合(A)、懸念(C)、弱点(W)、欠陥(D)

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 R1	前年度自己点検及び改善すべき事項 R1	①評価概要 R1	評価 R1	②改善事項 R1	会議開催回数 R2	③今年度の活動内容 R2	④自己点検及び改善すべき事項 R2	評価者	⑤評価概要 R2	⑥評価 R2	⑦改善事項 R2
18	情報セキュリティ推進委員会	情報処理センター長	図書・情報係	1)教職員向け情報セキュリティ教育の実施 1-1)職員向け情報セキュリティ研修の実施(5/14, 16) 1-2)高専機構CSIRT教員による情報セキュリティ研修の実施(7/24) 1-3)情報セキュリティに関するe-Learning教育(11月) 1-4)高専機構による構造的メール訓練(12月2月) 2)平成30年度情報セキュリティ監査指図書項目への対応について 1-1)研究室への無線アクセスポイントの設置を登録制にした。 1-2)部外者が出入り可能な場所の情報コンセントはプラグロックなどを行い、適切に管理することとした。 3)情報セキュリティインシデントへの対応 4月)に発生した情報セキュリティインシデントについて適切に対応・報告するとともに、事後対策として1-1),1-2)の情報セキュリティ研修を実施した。 4)IT資産管理調査の実施(10月) 5)情報セキュリティ人材育成事業について 5-1)年度当初に各専門学科で情報セキュリティ教育実施計画を策定し、計画に基づき実施した。 5-2)第3ブロック学生を対象とした情報セキュリティ講習会を実施した(6/28)。	活動は良好である。 ・Office365への多要素認証導入計画の策定	学生および教職員向けの情報セキュリティ教育、人材育成、インシデント対応など活動は良好である。	A		5	1)教職員向け情報セキュリティ教育の実施 1-1)高専機構による情報セキュリティ講習会の実施(10/27) 1-2)高専機構による構造的メール訓練(9月,11月) 2)情報セキュリティインシデントへの対応 メールに関する2件の情報セキュリティインシデントについて適切に対応・報告した。 3)IT資産管理調査の実施(1月) 4)教職員及び学生へのMicrosoft365(旧Office365)多要素認証の導入(3月) 5)情報セキュリティ人材育成事業について 5-1)進捗点検として施設整備および教材導入を実施した。 5-2)教職員等育成プロジェクトに採択され、教員3名が研修等に参加した。	活動は良好である。 ・メールによるセキュリティインシデントへの対応として、メールへのファイル添付の代替手段について検討する必要がある。	亀山教授	良好である	A	
19	テクノセンター運営委員会	研究主事	研究協力係	■テクノセンター全般 本年度共同研究12件、受託研究4件、技術相談31件を実施している。 KOSEN4、0イニシアティブ事業で掲げた評価指標:技術相談件数30以上を継続し、活発な産学連携が行われた。 ■技術開発部門 テクノシナジー、外部資金獲得のための講演会、知財講演会を継続するとともに、岐阜県工業会等外部機関との連携を通して地域連携を推進した。 ■技術教育部門 リテラシー活動、インターンシップ事業等を通して、学生の教育活動を行うとともに地域連携を継続した。	活動は良好である。	良好である。	A		8	■テクノセンター全般 本年度は、共同研究10件、受託研究・事業3件、技術相談18件であった。 ■技術開発部門 新型コロナウイルス感染拡大のためテクノシナジーは中止となったが、地域連携協力会のHPを会員が利用しやすいよう一新した。実質的に申請者が利用可能な共同利用研究室を2部屋確保し、研究がしやすい環境を作った。		山本学生主事	良好である。	A	特になし。
19	-1 科学技術リテラシー教育推進室	山田実	技術室	建築学科を除く4学科からリテラシーのテーマが提案され、募集テーマ数は10であった。受講者数は本科79名、専攻科12人であった。そして、本科30名に1単位、49名に2単位、専攻科12名に2単位を認定した。 ・6月12日に受講者に対しガイダンスを行った。 ・ぎふサイエンスフェスティバルには岐阜高専として8ブース出展し、活動の成果を発表した。 ・1月29日に成果発表会を行い、テーマごとにポスター発表をした。	活動は良好である。 単位認定者数は本科生で過去最大数。専攻科生を交わせた全体でも過去最大数となり、全学に活動が広がっている。 継続的な活動のため複数年受講する学生を増やす必要がある。 単位認定のために提出される書類に不備があり、再提出となる場合が多い。指導教員による確認および電子ファイルの改善が望まれる。	良好である。	A		0	建築学科を除く4学科からリテラシーのテーマが提案され、募集テーマ数は9件であった。ただし、コロナ禍の影響で学外活動ができず、受講者は本科、専攻科ともに単位認定もなかった。ぎふサイエンスフェスティバルでのブース出展依頼がなかった。各テーマの指導教員は、来年度に向けた準備を行った。	全学科からテーマの提示があるとよい。	久保田教授	活動は良好である。	A	会議回数が0になっているので、それで支障ないのであればその旨を示しては如何でしょうか。
19	-2 若船連携推進室	研究主事	総務・企画係	「若船連携事業室」で連携し、従来の中核人材育成入門、基礎、アドバンスの3コースを継続するとともに、2020年度からの新規講座「現場からのIoT」開設に向けて、本校教員とともに準備を行った。	活動は良好である。	良好である。	A		1	中核人材育成入門について、結果的にはコロナ禍で中止となったが、若船連携企画室と本校教員が連携した新しいIoT講座を立ち上げることができた。また、地域連携協力会ホームページのリニューアルによって、連携活動を一層アピールすることができた。対面会議は1回であったが、メールを通して頻りに情報交換が行われた。	良好である	久保田教授	活動は良好である。	A	
19	-3 知的財産委員会	研究主事	研究協力係	新規審査、審査請求対応、権利消滅審議等について、適切に対応した。	活動は良好である。	良好である。	A		6	新規審査、審査請求対応、権利消滅審議等について、適切に対応した。	活動は良好である。	久保田教授	活動は良好である。	A	
19	-4 機器分析室運営委員会	羽測	研究協力係	■(機器設備の管理に関する事項) ・機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理している。今年度は、ラマン散乱分光器のCCDの修理をした。 ■(利用に関する事項) ・今年度は岐阜大学との機器共用のためのシステム構築を行った。現在は試行として予約システムが稼働している。 ・利用状況は前期444時間、後期369時間となった(集計はH30年度)	活動は良好である。 本塚先生の代わりに島本先生に入っていたいただき、機器利用の促進を図る。	良好である。	A		0	■(機器設備の管理に関する事項) ・機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理している。今年度は、SEMの保守点検を行った。 ■(利用に関する事項) ・利用講習会を2回行った。 ・利用状況は前期70時間、後期294時間となった(集計はR01年度)	活動は良好である。 ・来年度は、熊田教員に委員として加わっていただく。	久保田教授	活動は良好である。	A	会議回数が0になっているので、それで支障ないのであればその旨を示しては如何でしょうか。
20	メディア委員会	研究主事	図書・情報係	■図書館部門 1)利用者講習会の実施(第1学年対象・4月上旬) 2)ブックハンティングの実施(令和元年6月) 3)読書感想文、自由投稿文、図書だより表紙イラストのコンクール実施(自由応募形式で実施) 4)図書館だより、記事の編集・発行(規定に従って実施) 今年度後期は改修工事となり、臨時図書館での活動であるため、高専祭企画などが実施できなかった。 ■情報処理センター部門 1)第1学年情報処理センターガイダンスの実施 2)高専統一ネットワークの運用(無線LAN拡充など) 3)IT資産管理調査の実施(AssetBase登録情報) 研修会等への参加(高専フォーラム、IT人材育成、情報担当者研修ほか) 4)「情報処理教育・研究報告第47号」の発行(紀要と同時収録) 5)無線LANの運用(全学生対象) 6)無線LANの運用(全学生対象) 7)昨年度の課題への対応 ①図書館棟改修に伴う対応:3月末に演習室移設を実施した。 ②高専統一システム(KIA)導入に向けた支援準備:各種会議において情報を収集した。 ③認証環境の整備とID管理のさらなる強化:Office365の多要素認証導入に向けて検討中である。	活動は良好である。 ■図書館部門 1)臨時図書館での運営となり、後期は限定されたサービスの実施となった。 2)図書や論文の検索講習会は、改修のため実施できず、次年度に行う。 3)読書感想文などのコンクールは、自由応募として応募数が大きく減少した。 ■情報処理センター部門 1)1号館などの改修に伴う対応(スイッチの移動などの対応)の準備 2)高専統一システム(KIA)導入に向けた支援準備 3)Office365の活用促進とセキュリティ強化 4)次期演習室整備に向けた検討と調達業務	良好である。	A		9	活動は制限された状況において良好である。 ■図書館部門 1)コロナ禍でのリスク管理に対応した緊急対応の運営となり、感染症対策をとったうえ(アクリル板設置等)での限定されたサービスの実施となった。完全閉鎖中は代替として宅配出のサービスを実施した。また、除菌機を購入し返却圖書の除菌対応を行った。 2)図書や論文の検索講習会、ブックハンティングは、学生活動の制限のため実施できず、次年度に行う。 3)紀要第56号を発行した。紀要の申込数の減少傾向が継続しており、継続を検討すべき段階となり、学芸員から議論を行った。 ■情報処理センター部門 1)LMSIによる情報リテラシー教育の実施 2)IT資産管理調査の実施(AssetBase登録情報) 3)研修会等への参加(高専フォーラム、IT人材育成、情報担当者研修ほか) 4)「情報処理教育・研究報告第48号」の発行(紀要と同時収録) 5)無線LANの運用(全学生対象) 6)無線LANの運用(全学生対象) 7)新型コロナウイルス感染症対応 ①遠隔授業用受信用PCの貸出。 ②演習室のコロナ対策(入室管理名簿、アルコール除菌シートの設置) 8)昨年度の課題への対応 ①1号館改修に伴う対応:ネットワークスイッチ移設完了。 ②Office365の活用促進とセキュリティ強化:オンライン授業の実施によりTeams等Office365の活用促進が促進された。また、教職員および学生に多要素認証を導入しセキュリティを強化した。 ③次期演習室整備に向けた検討と調達業務:演習室設備を更新した。	■図書館部門 ・コロナ禍の収束状況に対応して、定例の活動を実現可能な範囲で継続してゆく。 ・紀要は投稿数の増加に向けての募集案内を強化して、安定的な継続を目指す。 ■情報処理センター部門 1)無線APの調査 2)次期学内ネットワーク整備に向けた検討 3)高専機構テナントAzure経費のさらなる削減	熊崎教授	良好である。	A	
20	-1 IT技術管理WG	情報処理センター長	図書・情報係	1)図書館改修に伴うサーバ等の移設 2)令和2年度情報処理センター演習室更新のための情報収集および方針(案)の策定 3)教職員メールの不具合対応 4)LMS(Moodle)のクラウドへの移設	活動は良好である。 ・1号館改修に伴うネットワークスイッチ等の移設	良好である。	A		0	1)1号館改修に伴うネットワークスイッチの移設 2)COVID19対応のための遠隔授業配信設備の立案・導入 3)情報処理センター演習室導入に関する業者との打合せ 4)GIGAスクール構想に伴う学内光ケーブル敷設および基幹スイッチ移設に関する業者との打合せ	活動は良好である。	熊崎教授	良好である。	A	
20	-2 アクティブラーニング推進WG	情報処理センター長	図書・情報係	1)授業参観週間に合わせ、授業技術研究会を実施した(実施回数:2回) 2)第3ブロックアクティブラーニング推進研究会への参加	活動は良好である。	良好である。	A		6	1)第3ブロックアクティブラーニング推進研究会への参加	制限された状況において良好である。	熊崎教授	良好である。	A	
21	学生相談室会議	麻草	学生係	・自殺予防、いじめ及びハラスメント対策として、前期に学校生活アンケートをLMS方式で実施し、学級担任と連携して学生のカウンセリングに繋げた。後期は、学校生活アンケート簡易版を作成・実施し、担任と相談室員が連携してカウンセリングに繋げた。 ・学級担任による学生指導の一助とするため、クレバー検査を1・3年生に実施した。 ・カウンセリング予約をweb上で行うようにし、業務の効率化を図った。 ・学習サポートルームを本年実施し(34回)、主に数学と物理の補習授業に対応した。 ・相談室、キャリア支援室、学習サポートルームなどを、ポスター掲示やホームページ等により学生への周知に努めた。また、保護者向け、高専とより紹介記事を掲載した。 ・教職員のFD研修として、教員会議開始前の30分程度、カウンセラーによる全体研修会を1回実施した。 ・カウンセラーに依頼し、1・2年生の特活でメンタルヘルスとコミュニケーションに関する講座(学生参加型のワークショップ)を行った。	各曜日カウンセラー1名体制となった。カウンセリング業務が長期化する中、学生の生活状況、ストレス状況などを把握するためのアンケート調査を行った。 アンケートの結果を受け、日常的に気をつけるとよいことや相談室の利用について記した資料を各家庭に配布した。 O感染リスクを下げながら遠隔授業中の学生やその家族メンタルヘルスを維持するため、Teamsを利用したオンライン面談、電話相談を可能とした。また、Eメール相談対応のカウンセラーを雇用、時間外対応として土曜日午後の電話相談対応など、相談体制を強化した。 O1・2年生を対象に、特活時間を利用してコロナ禍でのメンタルヘルス、SNSでのコミュニケーションに関する講演会を6・7月と12月の2回実施した。O登録が可能となった後期に学校生活アンケートを実施し、全学生の状況把握に努めた。 O教職員向け学生支援に関するFD活動として8月の機構本部「いじめ防止等研修会」の受講、2月の岐阜市人権啓発センター職員による「学校・職場における人権」に関する研修受講をもってそれに充てた。	良好である。	A		11	コロナ禍を受け、カウンセラー、相談室員ともに昨年度より多くの相談件数に対応した。遠隔授業対応としての相談体制強化が効果的だった部分は大きい。連絡が十分に取れず、重症化するなど、難しさもあった。 Oアンケートの結果を受け、日常的に気をつけるとよいことや相談室の利用について記した資料を各家庭に配布した。 O感染リスクを下げながら遠隔授業中の学生やその家族メンタルヘルスを維持するため、Teamsを利用したオンライン面談、電話相談を可能とした。また、Eメール相談対応のカウンセラーを雇用、時間外対応として土曜日午後の電話相談対応など、相談体制を強化した。 O1・2年生を対象に、特活時間を利用してコロナ禍でのメンタルヘルス、SNSでのコミュニケーションに関する講演会を6・7月と12月の2回実施した。O登録が可能となった後期に学校生活アンケートを実施し、全学生の状況把握に努めた。 O教職員向け学生支援に関するFD活動として8月の機構本部「いじめ防止等研修会」の受講、2月の岐阜市人権啓発センター職員による「学校・職場における人権」に関する研修受講をもってそれに充てた。	良好である。	山本学生主事	良好である。	A	SSWの導入などを検討し、組織強化を図ることに期待する。

令和2年度 会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

評価： 適合(A)、懸念(C)、弱点(W)、欠陥(D)

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 R1	前年度自己点検及び改善すべき事項 R1	①評価概要 R1	評価 R1	②改善事項 R1	会議開催回数 R2	③今年度の活動内容 R2	④自己点検及び改善すべき事項 R2	評価者	⑤評価概要 R2	⑥評価 R2	⑦改善事項 R2
22	教員会議	校長	総務・企画係	定例会議6回、臨時会議を5回開催し、適切に報告等が実施できた。	会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態のため、紙の削減ができ経費の節約が図れ、業務の軽減につながった。 また、口頭説明は簡略化するなどで、進捗の効率化を図っている。	良好である。	A		8	定例会議5回、臨時会議を3回開催し、適切に報告等が実施できた。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、上記のうち定例会議3回と、臨時会議1回は運営会議と合同で行われた。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Teamsでのオンライン開催や運営会議との合同開催を行い、感染拡大の抑制と同時に業務が効率化した。会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態のため、紙の削減ができ経費の節約が図れ、業務の軽減につながった。	山本学生主事	良好である。	A	運営会議と教員会議の合同開催などにより、更なる会議の効率化を期待したい。
23	学級担任会議	教務主事	教務係	全学年の会議を4回、4年(研修旅行等)のみの会議1回を含めて、合計5回実施した。計画通り開催され、担任業務の周知や課題等について検討された。また、学科別で担任間の情報交換の場としても機能した。	教職員から学生への連絡および周知方法として学生メールを積極的に使用した。また、夏期実習先リスト、就職関係など、学生係と協力し、進学指導などは教務係と連携して、担任業務の負担軽減につながった。LMS(Moodle)やOffice365などを活用して、学生と教職員が同じプラットフォームから情報共有する更なる試みが必要である。	良好である。	A		4	年度当初から対面での会議が制限され、Teamsによるweb会議を実施した。前期は学生の登校ができず、授業は完全オンラインが基本となったため、担任業務の周知等については、メールや他会議との合同Teams等を実施した。昨年度の課題であった、LMS(Moodle)やOffice365などを活用して、学生と教職員が同じプラットフォームから情報共有する更なる試みが一部機能した。	亀山教授	良好である	A		
24	クラブ顧問連絡会議	学生主事	学生係	定例通り年間3回のクラブ顧問連絡会議を実施した。R1年度は、学生連のクラブ活動で各種大会やコンテストでの活躍が多くあった。R1年度より各種大会やコンテストへの出場学生への支援として、経費の使用について適正な使用について見直していく必要があったため、学生会や教育後援会と協力して支援する人数を設定するなどして調整することができた。クラブ指導上の問題点として、業務負担について検討した。その結果、各クラブの顧問で指導する日に合わせて勤務シフトの調整をするなどして対応することがあった。	昨年度に続きR1年度も各クラブの預り金(部費)を本校で統一した通帳として財務係管理の下に運用することができた。各種大会等の学生支援については、R2年度から後援会・学生会の会費値上げが実施できるため多少の余裕はあつたが、長期の各種大会開催予定地も考慮し、経費の使用について適正に使用していく必要があり、学生会や教育後援会と協力して検討していく予定である。また、クラブ指導における業務については、勤務割振りの変更などで対応がきているのかを、継続して確認していく。	良好である。 後援会費、学生会費による適切な学生支援や、教員のクラブ指導業務に関して、継続して検討していくことが期待される。	A		3	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、年度初めより遠隔授業が続きクラブ活動は全面的に中止の期間が長く続いた。第1回クラブ顧問連絡会議の開催についても、3密防止のために対面ではできないため、予め作成していた資料を各クラブ筆頭顧問へ配付(データの転送)することになった。第2回会議は、臨時クラブ顧問連絡会議という形式で各クラブ代表顧問に集まっていただき、10月からの分取寄せが始まる前の9月に実施した。ここでは、感染防止のために作成したクラブ活動チェック項目の説明、各クラブに合わせた感染対策のお願い、保護者へのクラブ活動学生参加の同意書などの説明を行った。第3回クラブ顧問連絡会議は、例年通り1月に開催することができた。年度末の連絡事項や次年度の予定について説明を行った。	昨年度に続き令和2年度も各クラブの預り金(部費)を、本校で統一した通帳として財務係管理の下に運用することができた。しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のために、クラブ活動の頻度が低い上大会への参加もほとんどできていないため、学生会援助金の残金を次年度へ繰越可とした。令和3年度に活発な活動ができることを願っている。昨年度末に課題となっていたクラブ指導業務については、勤務割振りの変更などで対応がきているかを継続して確認していくが、これ以外でも課外活動指導員の導入について、他高専の方法を参考にしながら進めていければと考えている。	上原教授	活動状況は良好である。	A	なし。
25	若鮎奨学基金運用委員会	校長	総務・企画係	5月に選考基準の改正を行い、主管会議構成員により2月20日に委員会を開催し、表彰関係48件と助成関係39件を決定した。	活動は良好である。	良好である。	A		1	主管会議構成員により2月25日に委員会を開催し、表彰関係15件と助成関係0件を決定した。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学生の課外活動や学会発表の機会が減少し、表彰・助成金とも例年より件数が少なくなった。	吉村教授	良好である。	A	特になし
26	特別支援検討委員会	学生主事	学生係	平成29年度入学生で、聴力障がいや有する学生への対応を引き続き実施した。該当学生は第3学年に問題なく進級し、クラブ活動(卓球部)も活発に活動している。H30年度末には、担任との面談会議でH31年度に向けても改めて委員会を開催する必要性がないことを確認した。これについては、本人や保護者も了解済みであり、聴力障害に関する配慮事項の纏めを担任や各教科担当へ伝達する方法で継続的な支援のお願いを行った。次年度第4学年に進級するため、既に新任との面談を終えている。	聴力障がいや有する学生については、第3学年でも問題なく学校生活を送ることができた。第4学年に進級するが、改めて委員会を開催する必要はないという事を担任と確認しており、保護者からの同意も得ているため、これまで同様配慮事項の引継ぎを行う事で継続して支援していくつもりである。	良好である。	A		0	令和2年度においても、平成29年度入学生で聴力障がいや有する学生への対応を引き続き実施した。該当学生は第4学年に問題なく進級している。令和元年度末には、担任との面談会議で令和2年度に向けても改めて委員会を開催する必要性がないことを再確認した。これについては、本人や保護者も了解済みであり、聴力障害に関する配慮事項の纏めを担任や各教科担当へ伝達する方法で継続的な支援のお願いを行った。また、年度の最中には、遠隔授業に対して支援の必要性がないかを確認した。当該学生からは、オンライン授業の方が対面授業より問題がないことを確認している。次年度は第5学年に進級するため、既に新任と当該学生への支援の必要性について、確認を終えている。	聴力障がいや有する学生については、新型コロナウイルス感染防止のため長期遠隔授業が続いた第4学年でも、何ら問題なく学校生活を送ることができた。令和3年度は第5学年に進級するが、改めて委員会を開催する必要性はないという事を担任と本人から確認している。これまで同様配慮事項の引継ぎと、関係教科担当教員へ行う事で継続して見守りながら支援していくつもりである。	吉村教授	この委員会は本校に支援を要する身体に重度の障がいがある学生が入学したことを契機に制定され、平成28年4月に施行された「障害者差別解消法(正式名、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)」にあわせて改定されているが、毎年年度初めに支援を要する学生を確認(特に第3条のうち「本校の学校医が認める者」)することが望ましい。また、本校に令和2年1月「キャリア支援室」が設置されたこと、特別支援検討委員会の組織に本校の看護士を含んでいないことなど、規程の見直しをすることが望ましい。	C	・年度初めには委員会を開催し、支援を要する学生を毎年確認する。また、学内の現状を鑑み可能であれば規程の見直しを行う。
27	男女共同参画推進室	鶴田	総務・企画係	○女子学生の利用するトイレおよび更衣室に関する女子学生対象のアンケート調査を実施し教員会議で報告するとともに、女子トイレ増設および更衣室(男女)設置に関する生活関連施設改善要望をとりまとめ、財務施設委員会に提出した。 ○女性教員用更衣室の試行運用および女性教員との懇談を行い、新たな更衣室設置の検討を行った。	平成30年度に実施した全教員対象の「男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備」調査結果を踏まえた制度改善については、女子トイレ、女子更衣室について防犯上の課題が持ち上がり、急きよ、そちらの対応を優先させる必要が生じ、後回しにせざるを得なかったが、本年度以降、引き続き推進に努める。	良好である。 防犯上の課題について、引き続き学校全体での意識改善を期待したい。	A		メール審議4回(11/4-10/11/19-21/3/22-24/3/31-4/6) メールでの意見聴取1回(10/15)	1号館改修中について不足する女子更衣室の確保と担任および学生への周知を行うとともに、コロナ禍において対面会議が実施されない中、運営会議メンバー間のメールで女子更衣室の追加設置や女子トイレの環境整備(換気方法)について発言の機会を得た。	同参画推進室活動のベースとなるダイバーシティの啓蒙活動の推進を図るとともに、今後予定されている校舎等改修計画においても継続してダイバーシティ推進の観点からの施設整備改善の検討を継続する必要がある。	麻草准教授	良好である。	A	継続したダイバーシティ啓蒙活動が期待される。
28	教育AP推進室	研究主事	総務課長補佐	・前年度までのAP事業を全て継続し、発展させた。また、最終成果報告書をもとめ、全教員・新入生を含む全学生にAP事業成果を可視化した。 ・前年度までに加えて、学生の、ICT活用学習支援環境に関する期待度の調査を、専攻科を含む全学生に実施し、取りまとめた成果を上記成果報告書pp.5-28～32にまとめた。 ・年度末のAP学生アンケートを専攻科生を含む本校前学生に対して実施し、集計結果をAP学内用ホームページに共有することで全教職員に可視化した。自律的学習時間のまとめに限らず、学生も閲覧できるようにした。 ・高専機構および文科省からの、報告依頼事項に対して、全て対応し報告した。 ・上記学生アンケートで希望の強かった、キャリア支援室のコンテンツを年度末予算(会議自費による旅費の未使用分など)で大幅に拡充した。	・AP最終年度に、本校の従前の高専教育体制に、ほとんど負荷を掛けることなく、AP事業にて構築した「ICT活用教育支援資産」を、新年度以降も維持・発展できる体制を学内に構築できた。学生アンケートやLMSの活用状況を鑑み、学生には肯定的に捉えられており、むしろ更なる改善を要求する意見・意識を引き出したこと、それらを全教職員に可視化できたことは、AP事業の最大の成果であると自己評価する。 ・改善すべき事項としては、事業終了のため無いが、上記本校の成果資産が引き続き維持・発展されることを期待している。	・教育AP推進室の活動成果は6年間に亘り、毎年出版された成果報告書版のみならず、外向きのWebサイトにも公開されており、活動状況は極めて良好である。獲得した経費により本校内のIT機器の設備的な充実が図られたのみならず、今後の継続的な改善が期待される制度やシステムも構築された。さらに6年間に亘る活動は、ITを活用した授業の取組についての学生・教職員の意識改革を促す結果にもなった。	A	改善事項なし。	0	AP事業は令和元年度で終了したため「推進室」としての活動はないが、6年間のAP事業の資産は今年度コロナ禍における遠隔授業への円滑な移行に大いに役立った。また、6年間の成果が報告書としてまとめられた。	AP事業は令和元年度で終了したため「推進室」としての活動の予定はなし。	熊崎教授	良好である。	A	
29	リスク管理室会議	校長	総務課長補佐	岐阜工業高等専門学校危機管理規程に定める危機事象が発生しなかったため、活動なし。	岐阜工業高等専門学校危機管理規程に定める危機事象が発生しなかったため、活動なし。	岐阜工業高等専門学校危機管理規程に定める危機事象が発生しなかったため、活動なし。	-	岐阜工業高等専門学校危機管理規程に定める危機事象が発生しなかったため、活動なし。	25	新型コロナウイルスの対応を検討するため、令和2年度より発足したものの、25回の会議を行い、新型コロナウイルスに関わる本校の方針を審議した。	本会議により、新型コロナウイルスへの対応方針が決定され、重要な役割を果たしており、活動は良好であった。	久保田教授	平成23年制定の危機管理規程下に設置された組織であるが、コロナ禍対応を目的として活動したのは令和2年度以降と思われる。左記の記述によれば活動状況は良好の模様である。	A	危機管理規程には組織名が「リスク管理室」と明記されており、左記の組織名と一致しないので如何でしょうかリスク管理室・学生相談室・国際交流室のみ室の後に会議と付されている。